

2013年9月10日

## 2013年秋の陣

公益財団法人 国際通貨研究所  
理事長 行天 豊雄

夏の異常気象のように世界経済も見通し不能だ。スナッフ・ショット的に見れば日・米を始めとしてどの国もそこそこやっているという感じなのだが、一寸立入って見るとあちこちに不具合が残っていたり、新しいひびが見付かったりする。

それにしても年末迄の4ヶ月は一寸異常な位世界中で出来事が待っている。まず日本では消費税引上げの帰すうが決まり、国会で「第三の矢」の実像がはっきりする。つまり、アベノミックスの命運が決まるということ。米国ではQE3脱却の道すじが明らかになり、バーナンキの後任も決まる。財政赤字問題での議会の動向もはっきりするだろう。欧州ではドイツの選挙。おそらくメルケルは勝つんだろうが、勝ち方によって今後のユーロ圏経済には大きな影響が出る。ドイツ国民はどこ迄自分達の将来の命運をヨーロッパに賭けるだろうか。中国では11月に三中全会が開かれる。金融改革・国有企業改革という核心的経済改革が本気で進められるのか、それとも習近平体制確立という政治的要請が先行するのか。韓国、ロシア、インド等日本と縁の深いG20諸国でも、年末迄の経済運営はそれぞれにきわめて重要である。

こういうさまざまな懸案の結果がどういう組合わせで実現するかは勿論今日の時点で正確に予見できるものではない。しかし、あえて一つの仮説を立てるとすれば、6年に及ぶ経済危機やそれから派生したそれぞれ固有の困難への対応に追われてきた世界中の国々において、さらなる大きな困難を呼ぶかも知れないチャレンジに喜んでぶつかって行こうという元気と無鉄砲さは見当たらないのではないかということだ。つまり、今皆が望んでいることは、何しろ危機から確実に抜け出るということである。まず正常状態に戻ってから先のことは考えようという心理である。

こういう対応は問題の先送りの危険と背中合わせであることは否定できない。今回の危機のもっとも根源的な原因である国際的な金融債務の過剰な積上りをどう防ぐかという課題はとてもしすぐには解決されそうもない。多分、金融危機から解放された世界というのはもう決して戻っては来ないだろう。にもかかわらず、2013年秋の陣で日本をはじめとする各国が、一歩でも二歩でも踏み込んだ結果を出すことが望ましく、必要なことは明らかであろう。どこの世界でも、最後は自助努力なのである。

(株式会社マネーパートナーズ ホームページへの寄稿)

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しく願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2013 Institute for International Monetary Affairs (公益財団法人 国際通貨研究所)

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: 3-2, Nihombashi Hongokuchō 1-chōme, Chūō-ku, Tokyo 103-0021, Japan

Telephone: 81-3-3245-6934, Facsimile: 81-3-3231-5422

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 1-3-2

電話：03-3245-6934 (代) ファックス：03-3231-5422

e-mail: [admin@iima.or.jp](mailto:admin@iima.or.jp)

URL: <http://www.iima.or.jp>